

# SHOW HEY シネマールーム

★★★★★

愛しの故郷 (我和我的家乡 / My People, My Homeland)  
第1話 続・Hello 北京 (北京の好人)

2020年 / 中国映画

配給: wow cool entertainment / 152分 (第1話: 約30分)

2021 (令和3) 年5月29日鑑賞

シネ・ヌーヴォ

Data

製作総指揮: チャン・イーモウ

監督: ニン・ハオ

出演: グォ・ヨウ / チャン・ジャン

イー / チャン・ユー / ハオ・

ユン / リュー・ミンタオ

## 👁️👁️ みどころ

“なりすまし”モノは面白い映画が多いが、健康保険証を使った“なりすまし”はレッキとした詐欺罪。しかし、中国の国民的俳優、葛優 (グォ・ヨウ) が“フーテンの寅さん”と同じように、愛嬌よく演じると・・・？

人情色とコメディ色は絶妙！ドタバタ喜劇風の展開ながら、現代の中国の問題点をチクリと風刺する小話はメチャ面白い！

しかして、本作ラストのオチは？やはり、中国映画は面白い！

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ■□■あの名優、葛優が登場！■□■

日本と同じように中国にも名優がたくさんいるが、張藝謀 (チャン・イーモウ) 監督の『生きる (活着)』(94年)、『シネマ5』111頁)で、激動の中国現代史をたくましく生き抜いた主人公を演じ、妻役の鞏俐 (コン・リー) と共に強烈な印象を残した名優が葛優 (グォ・ヨウ)。彼はたくさんのヒット作に出演しており、近時は馮小刚 (フォン・シャオガン) 監督の大ヒット作『狙った恋の落とし方。 (非誠勿擾)』(09年)に主演したが、チャン・イーモウ監督が製作総指揮を務めた本作の第1話『続・Hello 北京』では、その葛優が登場！

舞台は北京。第1話『続・Hello 北京』は、本作の姉妹編ともいえる陳凱歌 (チェン・カイコー) 監督の『愛しの母国 (我和我的母国)』(19年)の1作である『北京你好』の“続編”という位置づけらしい。しかして、本作の物語は、駐車場の管理人をしている主人公・張北京 (葛優 (グォ・ヨウ) の従弟である表舅 (張占義 (チャン・ジャンイー) が、フードデリバリーサービスの配達の中でちょっと仕事をさぼって張の家を訪れるところから始まるが・・・。

### ■□■手術代は多少銭？健康保険は？■□■

やってきた客が従弟の表舅だと一瞬気づかなかったのは、張が表舅に会うのが久しぶり、ということもあるが、表舅がどことなく弱っていたためだ。表舅は今、喉にできた甲状腺の腫瘍が大きくなっており、その手術代が7～8万円かかるらしい。少し前なら2万円で手術ができたそうだが、そりゃ大変。さらに、どちらにしてもそんな大金は持ち合わせていないし、そもそも彼は健康保険に入っていないから、どうしようもないのが実情らしい。

そんな“告白”をあまり深刻ぶらずに話してくれたからまだ良かったが、張もそんな大金を出してあげることなど到底無理。もちろん、表舅はそれは分かっているから、サラリと報告だけして、またすぐバイクに乗って配達に出かけたが、さて、何かいい手はないの・・・？

### ■□■よし、俺の保険証を！そうだ“なりすまし”で行こう！■□■

デンゼル・ワシントンが主演した『ジョンQ-最後の決断』（02年）（『シネマ2』137頁）は、日本のような国民健康保険（国民皆保険）の制度がない米国の悲哀をテーマにした問題提起作だった。突然の心臓疾患を宣告された息子の手術代はHow much？保険が使えなければ、心臓移植手術などとてもとても・・・。そこで下したジョンQの“最後の決断”は、息子の命を救うため“病院ジャック（医師ジャック）”を執行することだったが、本作の張は、表舅に甲状腺腫瘍の手術を受けさせるため、自分の健康保険証を使う（不正使用）ことを決断！

アラン・ドロンが一人二役を演じた『アラン・ドロンのゾロ』（75年）やレオナルド・ディカプリオが一人二役を演じた『仮面の男』（98年）では、双子の兄弟が“なりすまし”に成功していたが、さて、本作の張と表舅は？気の小さい表舅は、張が打ち出した大胆な計画（詐欺）に最初から及び腰だが、典型的な中国人（？）の張は、自分の高血圧の病状を利用して堂々と病院内に入り込み、表舅になりすますことに成功！とぼけた味を演じさせれば、葛の演技力はまさに世界一だ。しかし、ちょっとした手違いで、自分の喉にメスが入られる事態になったから、張は大変。さあ、張と表舅はそんな危機をどう切り抜けるの？

### ■□■未遂だったから微罪で！人情色とコメディ色は絶妙！■□■

日本の名優、渥美清のライフワークは言うまでもなく、『男はつらいよ』シリーズの、フーテンの寅さん役だが、なぜあのシリーズは50作も続いたの？『男はつらいよ』に続くシリーズとして企画されたのは、西田敏行と三国連太郎コンビによる『釣りバカ』シリーズだが、同作もなぜ22作まで続く長期シリーズになったの？それは、主人公のキャラが誰からも愛されるものであるうえ、パターン化された（させた？）ストーリー展開の中で、人情色とコメディ色が絶妙で、毎回程よくミックスされているからだ。

もっとも、寅さんには失恋が良く似合うから、いくら美女のマドンナが登場しても結ばれないのがミソだった。しかし、ひょっとして、山田洋二監督の采配ミス？そう思わせるような形で、寅さんと、浅丘ルリ子扮するリリーが結ばれそうになったが、やっぱりそれ

は無理だった。

中国の名優、葛優がいかにも、これぞ中国人というイメージで演じる詐欺師まがいの男は、実にピッタリな役柄だから、本作の張役をまさに水を得た魚のように楽しそうにその役を演じている。しかし、自分の喉を、メスで切り取られる直前、なりすまし犯行がバレてしまったから、大変。もつとも、それによって、表舅への手術もなくなったから、一安心だ。しかして、警察の前で、表舅は張に対していかなる対応を？俺はこの男から唆されて、なりすまし手術を受けようとしただけだ。悪いのは、(首謀者)の張だ。そんな展開になっていくもの。そう思っていたが、いやいや、実は正反対！そのうえ、なりすまし詐欺は、幸い未遂で終わったから、表舅は微罪で処理されることに。よかったね。まさに人情色とエンタメ色は、こうあるべしだ。

### ■□■最後のオチは？だから、やっぱり中国映画は面白い！■□■

コロナ禍が続く中、旅行・観光業者は大きな痛手を受けているが、私も中国旅行はもとより、とんと飛行機にも乗っていないことを実感中。私は飛行機の中ではいつもイヤホンに耳を当てて、ANAの機内オーディオプログラム(スカイオーディオ)を聞いているが、その半分は音楽、半分は落語だ。落語では常に最後のオチがポイントだが、さて名優、葛優が、まさに適役を得て、持ち前の演技力を発揮している本作のオチは？

落語に大家さんと借家人が登場する場合、大家さんが物知りで、借家人はとぼけた奴と相場が決まっている。他方、とぼけた亭主と、長年連れ添っているカカア(妻)は、しつかり者と、これも相場が決まっている。しかして、本作では、葛優演じる張は独り身だが、大それた犯行がバレて、2人とも大目玉を食らったのち、表舅はまたデリバリーの仕事に戻っていたが、その時点で、表舅には妻がいたことが明らかになる。張が住んでいるのは北京市内だが、表舅が住んでいるのは、河北省衡水市で、北京から250kmほどの場所らしい。本作ラストは、その表舅が住む、河北省衡水市での、別れのシークエンスになるが、そこで表舅の妻・玲子(劉敏濤)が語ったこととは・・・？なんだそれなら最初からこんな事件を起こすなよ！思わずそんな茶々を入れたくなったが・・・？だから中国映画は面白い！

尚、ネット資料を調べると、本作には①“大白兔奶糖”というミルク味のキャンディー、②流しのギター弾き、③憧れの車等で、日本人には容易にわからない“コメディ色”も散りばめられているそうだから、中国通の人や、中国語のわかる人は、それにも注目！

2021(令和3)年6月3日記